

おおの誠一郎

議会報告と提言

令和5年2月5日発行 発行責任者 大野誠一郎（龍ヶ崎市議会議員）



龍ヶ崎市宮淵町61
TEL 090-5780-6113

「道の駅」継続？中止？ 市長「3月に決断」

道の駅は現在、中断している。市長は「市長選の公約」で、整備をしない方向での「再検証」を掲げている、この「公約」で多数の有権者が一票を投じた。だが、当選後、整備をする方向での「再検証」に変わった。「再検証」の結果報告の後、市長は「市民の意見を把握し、総合的に判断し3月までに決断する」と発言。道の駅の「市長と市民の意見交換会」では、賛成の意見が1名、大多数の意見が反対。「市長選の公約」通り、道の駅は要らない！中止すべき！

道の駅は要らない！中止すべき！

① 「道の駅」の事業費約 37億円以上！ 回収不能！

「道の駅」事業費は25億6,000万円、小規模、大規模修繕（10年、20年、30年後の改修、リフォーム）費用は約11億円、合計約**37億円**以上。その費用は回収不能。0円。

② 年間80万人の利用者が30年間継続!? 有り得ない！

再検証においては、**30年間にわたって年間80万人の利用者があることを前提**として試算されている。絵に描いた餅以上に楽観的過ぎると言わざるを得ない。

③ 30年間にわたる、借入金返済！

事業費の大半は、借入金（30年返済）でまかなうので、30年間にわたる負の遺産となる。黒字になれば、多少の賃料は納付されるが、「焼け石に水」である。道の駅は必要ない。

④ 龍ヶ崎市に 農産物が無い!? えっ! うそっ! ホント!

龍ヶ崎市の、野菜の生産農家は、高齢化、離農で少なく、新規就農者（5年間で1名）も限られ、たつのご市場の出荷でてんてこ舞い。龍ヶ崎の農産物が店頭に並ぶのは「少しだけ」。2～3%の農産物に過ぎない。「たつのご市場」、「道の駅」両方に出荷すれば、共倒れ。

⑤ 赤字 になると??? 結局、赤字は市民負担!

市の計算によると、売上高7億8,000万円が、委託業者(指定管理者)の赤字ライン。赤字になると、委託業者は撤退。結局、市民が、赤字分を負担する。約30年。赤字負担と約37億円（整備、改修費用）の負担は、人口減の龍ヶ崎市民に、重く、のしかかる。

⑥ 市長の見栄か? 功名心か? 「公約破り」か?

市民は、大変な物価高上昇の折、1円でも安い品物を買って求めている。市の財政も大変。何のために、10年前の道の駅整備計画にこだわるのか、理解に苦しむ。
「実績」を求める市長の見栄か? 市長の功名心か? わからない。市民の負担増ばかりで、市民の利益にならない。市長にとっても、「公約破り」は利益にならない。

⑦ 次々と大型事業が続く! 優先すべきは?

学校統廃合により、松葉長山小中一貫校の建設、40億円、龍ヶ崎小中一貫校（龍小、龍西小、大宮小、龍ヶ崎中）50億円、新給食センター約20億円、新保健センター約13億円と、立て続けに大型事業が展開される計画。これらの大型事業も借入金が「頼みの綱」。だが、子供たちの未来、子供たちの教育の為には必要。また、保険センターも必要。

⑧ 超少子化、超高齢化対策、人口減対策を!

道の駅の目的は、認知度アップし、交流人口を増やし、結果、定住人口が増えるというもの。「駅名改称」も同じだった。改称した結果、効果は無かったという意見は多い。早急に、喫緊の課題である「**超少子、高齢化対策、人口減対策**」をより一層推進すべき。「みんなでつくる龍ヶ崎新時代」の実現を望みます。